

子どもの育ちを支える地域づくりについて

1 地域の子育てコミュニティの拠点づくり

(1) 利用者支援事業

目的…子育てに関する相談や助言を行い、地域の子育て支援、幼稚園や保育施設等への入所や利用に関する情報提供を行うなど、子育て家庭が状況に応じて必要なサービスを利用できるように支援する。

現状…すこやか福祉センター4所に利用者支援員を配置している。

(2) 子育てひろば事業

目的…乳幼児の親が不安や悩みを軽減し楽しく子育てできるように、身近な地域で集う場を用意して、親子で過ごし交流できる場を用意する。

今後、区内全域に委託による子育てひろばを展開していく計画である。

現状…〈公設：21か所〉すこやか福祉センター、U18プラザ、児童館に乳幼児親子専用室を用意し、育児相談、仲間づくり事業を実施している。

〈子育てひろば：委託：2か所〉週5日以上、1日5時間以上開設し、2名以上の支援員を配置して見守りを行っている。子育て相談や子育てに役立つ講座、季節行事等を実施している。

29年度は区民団体による運営1か所、乳児院による運営1か所。

〈乳幼児親子の居場所づくり：助成金：14か所〉NPO法人、区民団体による交流・情報交換の場の開設。月1～3回、週1回など頻度や居場所づくり、一時預かりなど内容は様々である。

〈まちなかサロン（社協）〉対象を問わない活動、乳幼児親子に限る活動を実施する団体が25か所ほどある。

2 地域の育成活動等の充実と育成者支援

(1) 中野区次世代育成委員

目的…地域に暮らす立場から、育成活動や子育て・子育て支援活動、学校・子ども関係施設などと連携して、地域の子育てネットワークを推進する。

乳幼児から青少年期まで一貫した子どもの発達を支援するため、区役所その他の関係機関と協働して、家庭・地域・学校の連携を推進する。

現状…中学校区ごとに、町会、地区委員会、PTAから推薦された委員と学校長による候補者推薦会を開催し、推薦を受けて区長が委嘱する。

第4期の委員29名は、平成29年4月から平成32年3月までの3年間、特別職の非常勤公務員として活動している。

活動…地区懇談会事務局として、テーマの設定から懇談会内容を地域に周知するためのニュースの発行を行う。学校や地域の行事に参加して子どもたちの様子を知り、地域の育成者との交流を図る。

(2) 地区懇談会

目的…中学校区の子どもや家庭をめぐる地域の課題や、家庭・地域・学校の連携に関する課題の解決に向けて協議し、地域活動を促進するとともに、連携を強化し地域ネットワークの核となっている。

現状…各地区懇談会は、次世代育成委員と児童館長が事務局を務め、町会、地区委員会、小・中学校長、小・中学校PTA、保育園など子どもに関わる施設などから推薦される委員で構成される。地域によっては、中学生の出席を求め意見交換を行うこともある。

活動…中学校区ごとに年間テーマを決めて、年間2～3回、話し合う場となっている。開催後には事務局がニュースを発行し、地域に広く配布し、内容の周知、PRに努めている。

テーマの例

- ・ 地域で支える子育て支援
- ・ 地域としてできること
- ・ 安全な地域づくりに向けて
- ・ 子どもの自己肯定感を高めるために
- ・ 一人ひとりの顔がわかる地域づくりを目指して
- など

(3) 青少年育成地区委員会

目的…地域内の子どもに関する団体や住民が結成した連合組織で、子どもたちの健全育成を目的としている。区内14地区で活動している。

昭和31年に行政主導で発足したが、その後の改正によって、地域住民の自主的団体として位置づけられている。

区は、助成や情報意見交換会の開催などの側面的な援助を行っている。

構成…町会・子ども会、PTA、ボーイスカウト、スポーツ団体から推薦された委員で構成されている。

活動

- ミニ・リーダー活動（小学生への体験活動の機会の提供）
- 子どもたちの安全の見守り
放課後や夜間、夏休みなどに環境安全パトロールの実施
- 子どもたちの安全への啓発活動
環境マップの作成、駆け込み体験の実施
- おまつりや行事の実施
- ニュースの発行による育成活動の啓発